

2021年度「卒業生キャリアアンケート」

調査実施報告書

2021年10月吉日
東邦音楽大学キャリア支援センター

実施概要

- ・目的: 本学の教育内容や学修環境改善等の参考とする。また、在学生の進路選択の一助とするとともに、卒業生の卒業後のキャリアサポートの充実を目途とする。
- ・実施方法: アンケート回答依頼を郵送のうえ、webアンケートを実施（回答はwebのみ）
- ・アンケート対象者: 卒業後3年目（平成28年度(平成29年3月)の卒業生106名（宛先不明除く）
（大学院：17名(宛先不明1)、大学：51名(宛先不明9)、短大：38名(宛先不明10)）
- ・実施期間: 2021年3月20日発送 最終回答締切: 2021年4月15日
- ・回収率: 22%（回答件数: 23件）

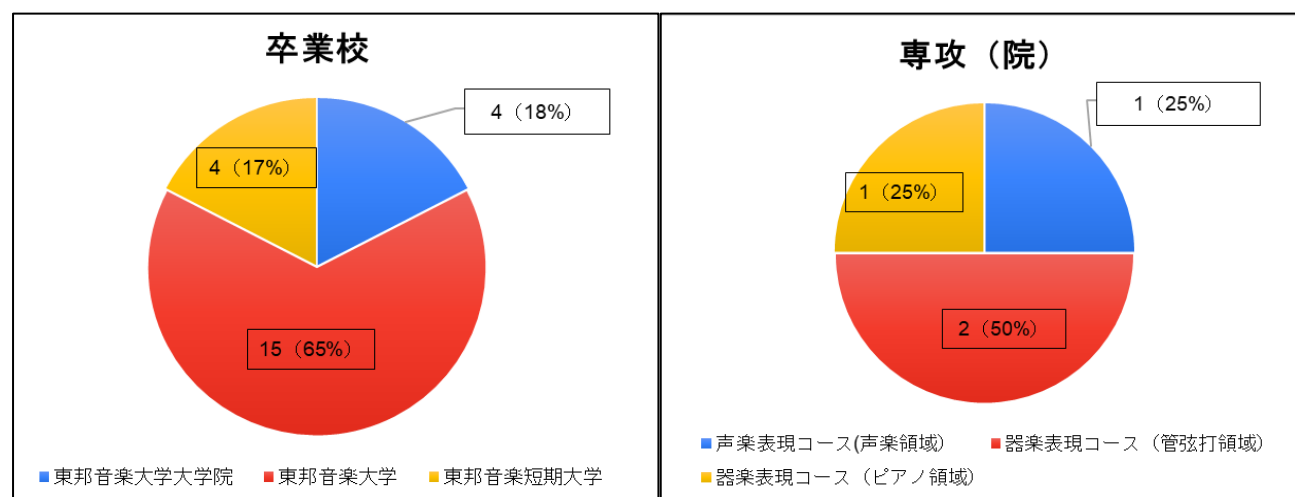
※母数が少数であること併せて回収率の低さにより、回答総数は23件に留まっているが、一般的に20～30%に留まるとされる郵送調査の回収率¹⁾の範囲内であった。データ分析としての信頼度としてはやや課題を残す結果であり、継続調査を実施のうえデータを蓄積していくことが望ましい。今後は、回収率向上の為の対策を検討すること、経年比較等も含めさらなる分析を進めることが本学における教育の質向上に繋がると考える。

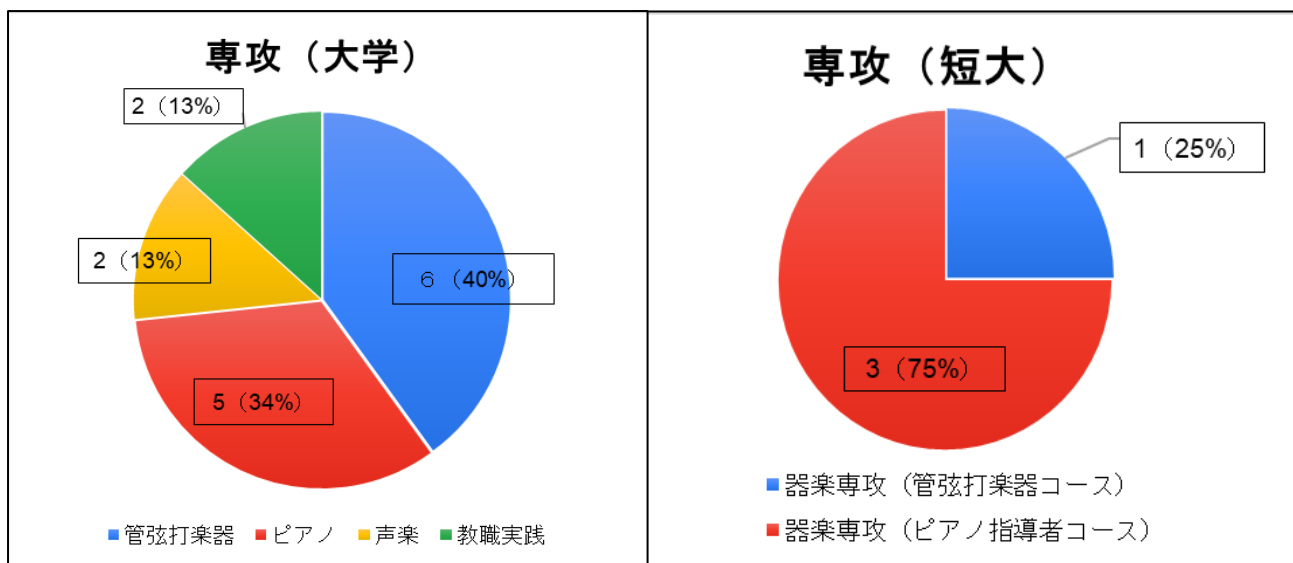
1) 大谷信介, 木下栄二, 後藤範章, 他: 社会調査へのアプローチ [第2版] 論理と方法, pp. 6-7, pp. 165-178 (2005) ミネルヴァ書房, 京都

1. 調査結果と考察

※各グラフ内における(%)の前に記載している数値は、回答人数の実数。

【Q1、Q2】 卒業校及び専攻・コース

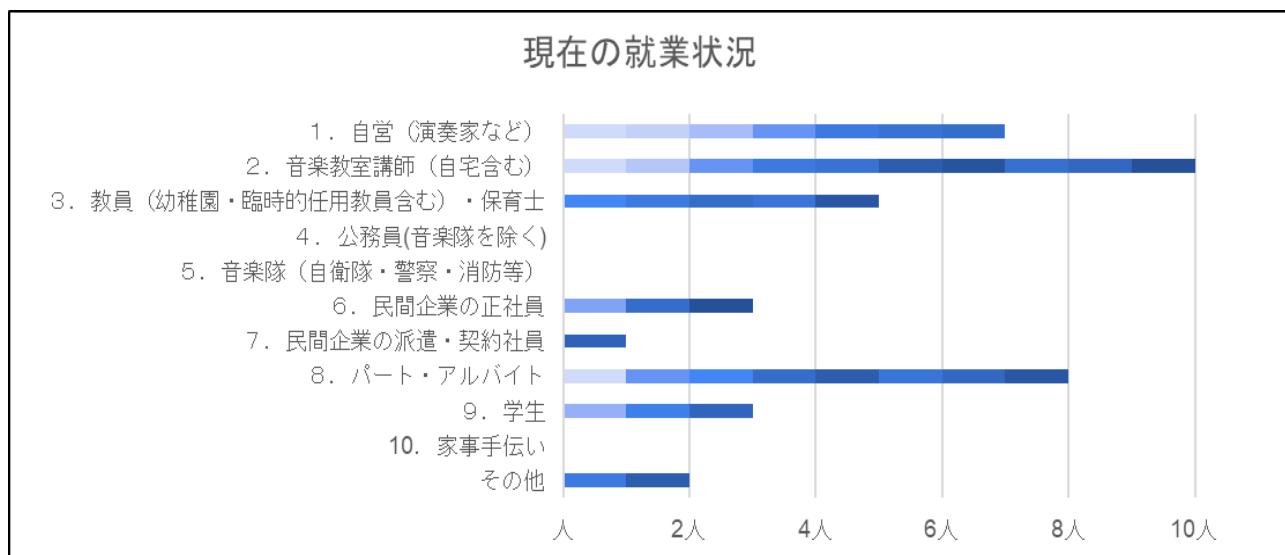




卒業校	回答数	専攻・コース
大学院	4	音楽（1）、管弦打楽器（2）、ピアノ（1）
大学	15	管弦打楽器（6）、ピアノ（5）、音楽（2）、教職実践（2）、
短期大学	4	管弦打楽器（1）、ピアノ指導者（3）

（ ）内は回答人数

【Q3】あなたの現在の就業状況についてお伺いします（複数回答）



（その他内訳：漫画家、福祉施設支援員）

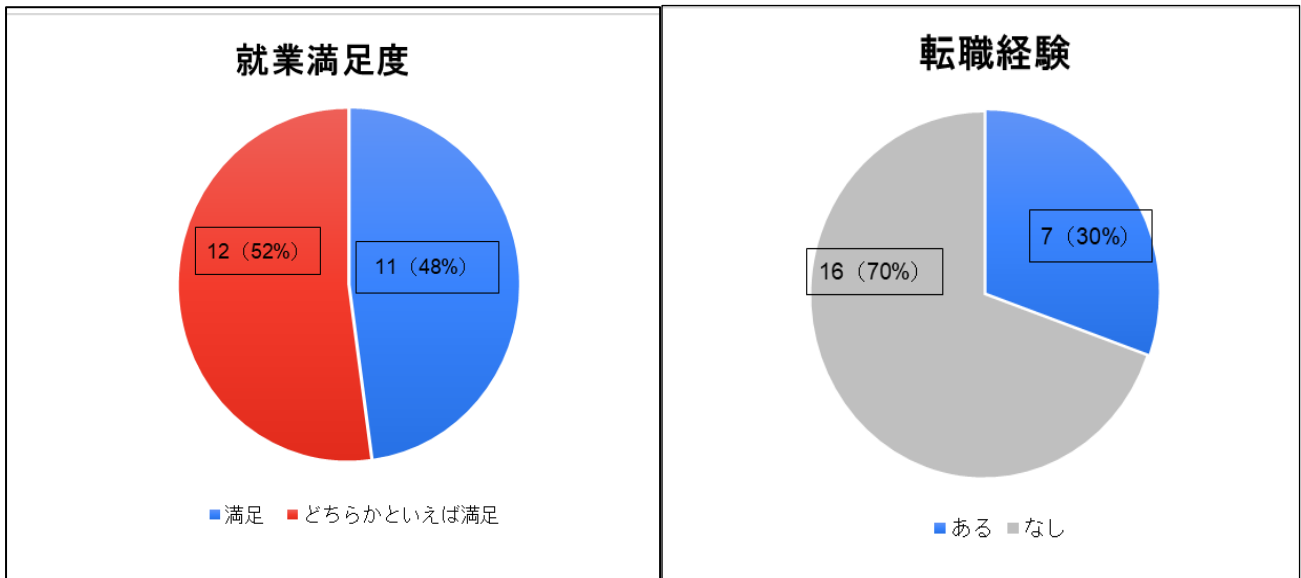
<自由記述：業界、会社名等>

音楽業界（クラシック）、非常勤講師・吹奏楽講師、病院受付、放課後等デイサービスー心堂、島村楽器、株式会社オリエンタルランドの準社員として東京ディズニーシー内ショップ《エンポーリオ、ヴァレンティナーズ・スイート》の販売キャスト、社会福祉法人茶の花福祉会大樹の森、保険営業

音楽教室が最も多く、次いでパート・アルバイト、自営（演奏家など）の順であった。本設問は複数回答であり、内訳からは講師や教員とアルバイトを平行して就業している様子が伺える。就業状況と専攻による相関については、今後、過年度データを総合的に分析することで新たな知見が得られると推察する。

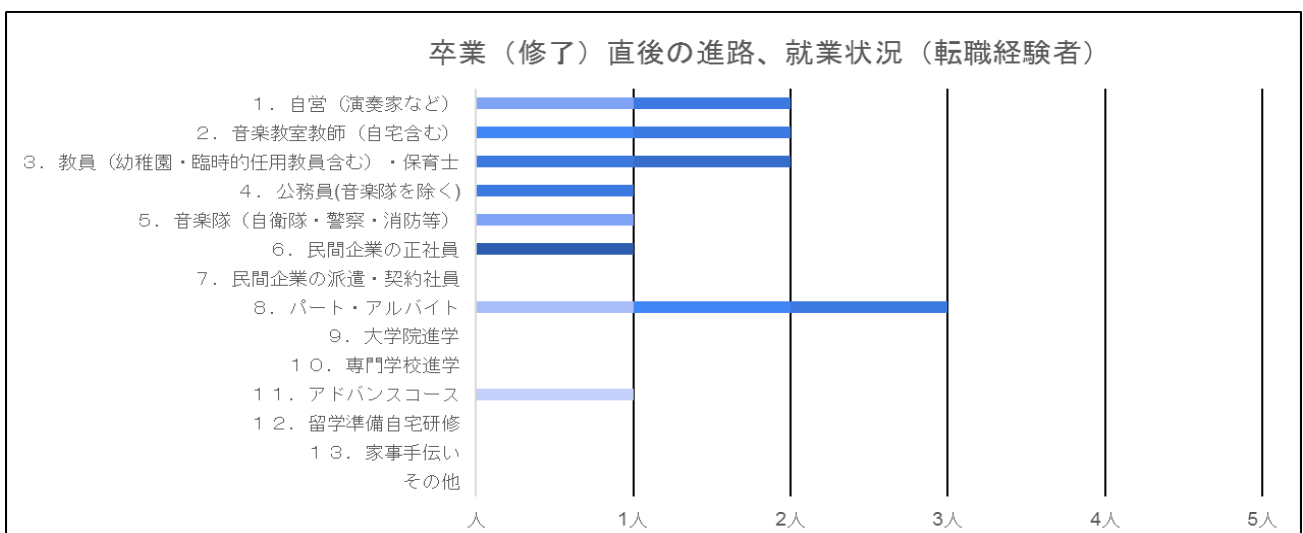
【Q4】現在の就業状況に満足していますか

【Q5】卒業（修了）直後からこれまでに、転職をしたことがありますか



現在の就業状況に「満足」、「どちらかといえば満足」を併せると100%との結果であった（2020年実施時は82%）。また、転職経験があると回答したのは30%であり、一般的に言われている3年以内に3割とされる転職率と同程度であった（2020年実施時は27%）。満足度と転職率を経年比較も踏まえて鑑みると、卒業時の就業状況のマッチングが比較的高いことが伺える。

【Q6】卒業（修了）直後の進路、就業状況についてお伺いします（Q5において、「転職経験あり」と回答した者（複数回答））

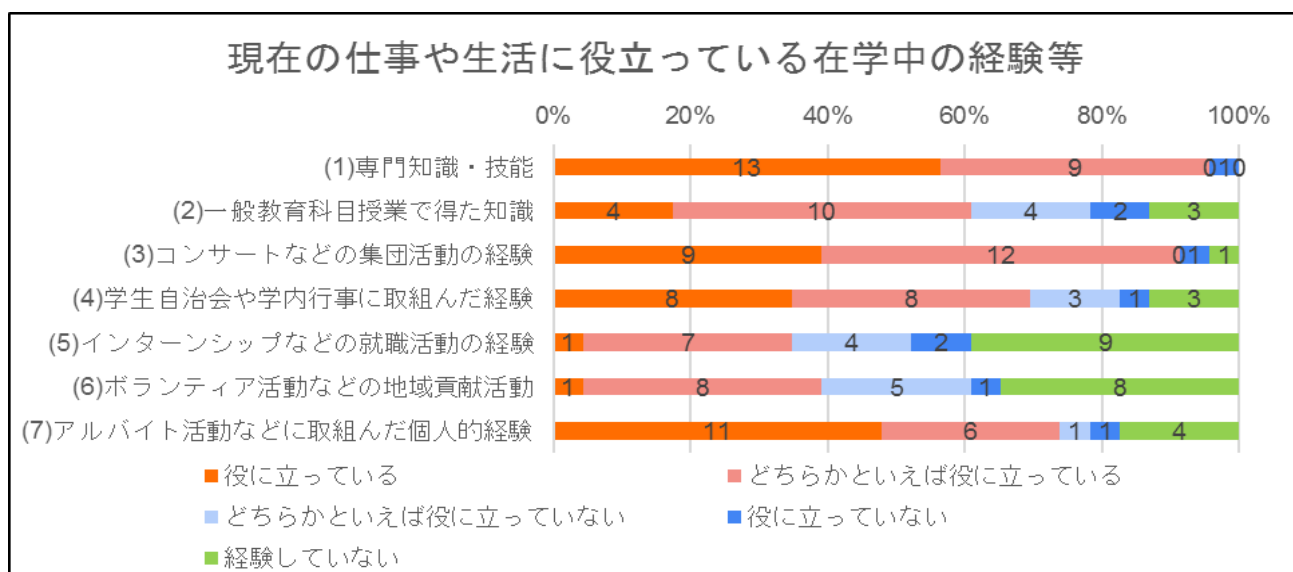


<自由記述：業界、会社名等>

埼玉県立和光特別支援学校、IT 関連

サンプル数が少数のため大きな差異は明らかになっていないが、最も多かったのがパート・アルバイトであった。本回答者がその後どのような経過をたどっているのかを、現在の就業状況（Q3）と併せて照査していくことで、キャリア支援の一助となる知見が得られると推察する。過年度データを総合的に分析していくことが望ましい。

【Q7】 在学中に経験した次の事柄は現在の仕事や生活に役立っていますか



「役に立っている」、「どちらかといえば役に立っている」を併せると、「専門知識・技能」が最も高い結果となった。次いで「コンサートなどの集団活動の経験」、「アルバイト活動などに取組んだ個人的経験」、「学生自治会や学内行事に取組んだ経験」の順となっている。本調査の回答者属性として、「音楽教室講師」（Q3、Q6）が最も多いことを加味すると、「専門知識・技能」が最も高いことは納得の結果である。また、二番目に高い「コンサートなどの集団活動の経験」は2020年実施時に最も高かった項目であり、回答属性に関わらず卒業生にとって有益な経験と位置づけられていることが伺える。

【Q8】 在学中に、このようなキャリア支援があればよかったなどありましたらご記入ください

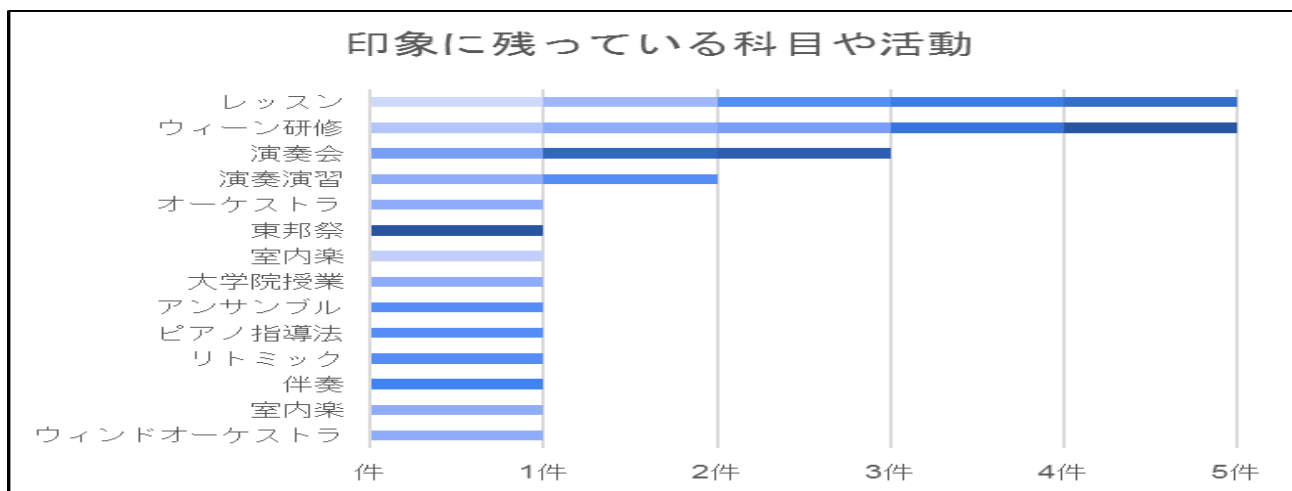
1	卒業後に音楽業界に入って学ぶことが圧倒的に多くあった。東邦スタンダードについては、この授業が本当に卒業後に役に立っていると思って講義を開いているならば考え直していただきたい。
2	キャリア支援予約制度 ※

注）自由記述を一部要約のうえ転載。※については既実施。

東邦スタンダードに関する記述については、当該授業の検討委員会等でも共有し今後の展開を検討する際の一意見として受け止めていきたい。併せて、本授業の本来の趣旨が学生に伝わるようにシラバス標記内容の検討や担当教員との意識統一を図っていくことが重要である。

キャリア支援予約制度については、新型コロナウイルス感染症対策の一環として、2020年度より原則予約制を導入し学生周知をしている。また、状況に応じて従来通り予約無での来室も受け入れている。

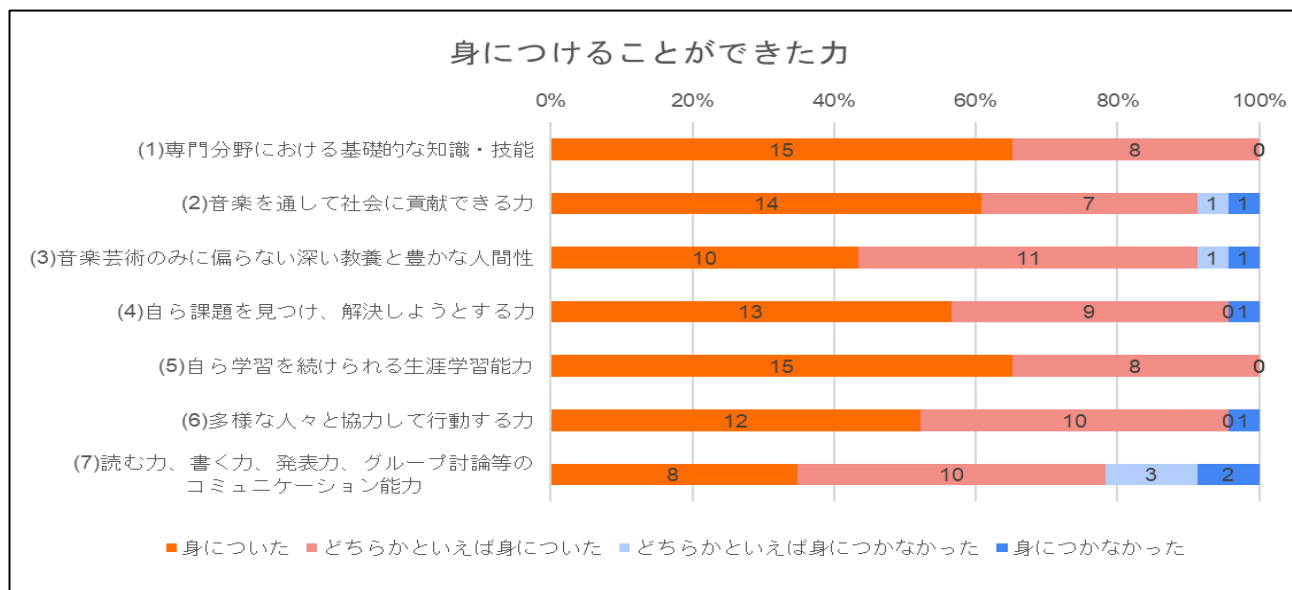
【Q9】在学中に印象に残っている科目や活動（演奏活動含む）はどのようなことですか（複数回答）



注）自由記述を分類分けしグラフ化

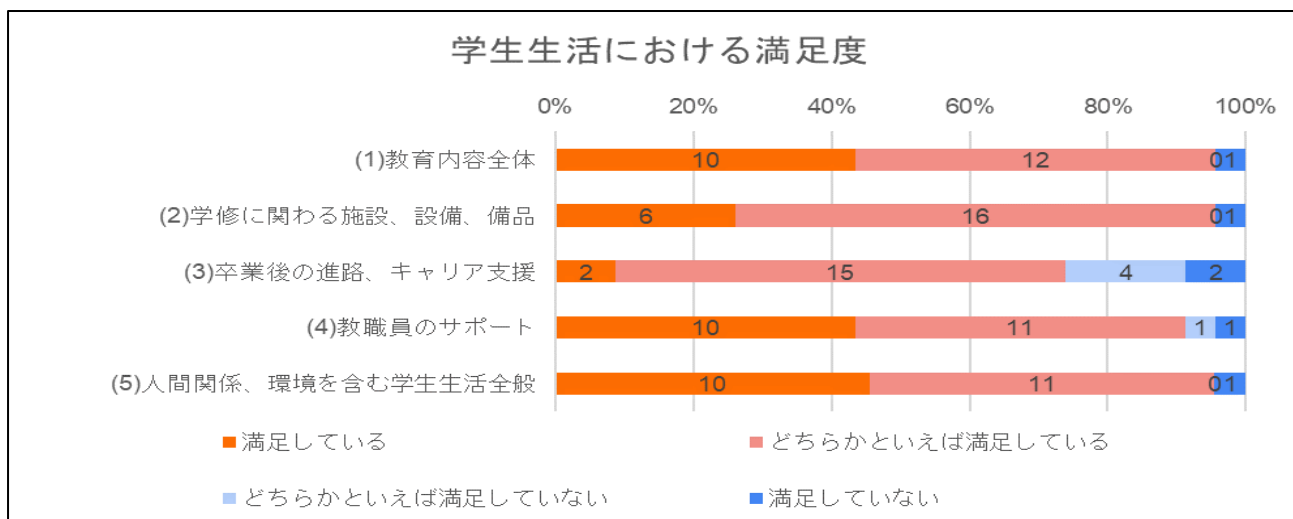
「レッスン」と「ウィーン研修」が同数で最も高い結果となった。次いで「演奏会」、「演奏演習」の順であり、上位4項目については2020年実施時と同様の回答傾向であった。他の回答項目については、実施年ごとに回答に挙げられる科目等が異なるため単年度での差異は見出しにくい。サンプル数を確保するために過年度データを総合的に分析することで、科目等における差異などが見いだせる可能性が推察される。

【Q10】本学で身に付けることができた力について伺います



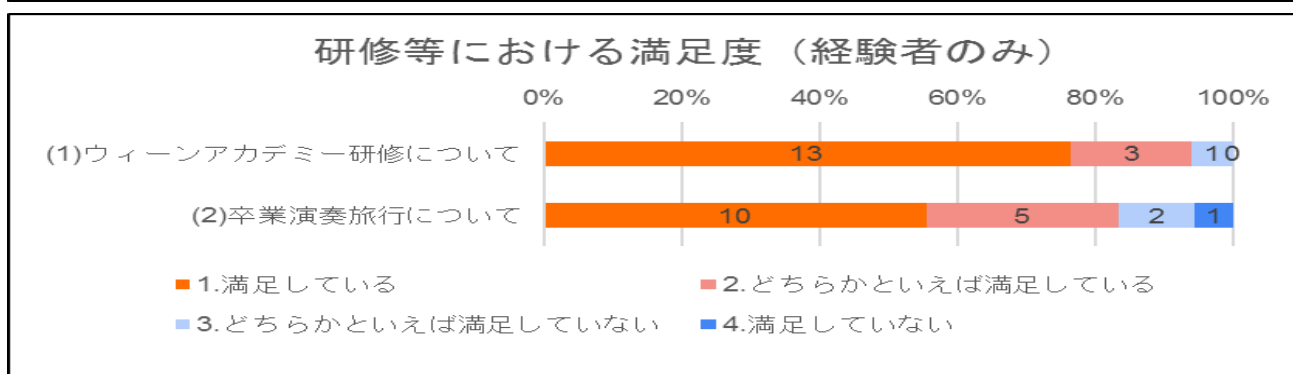
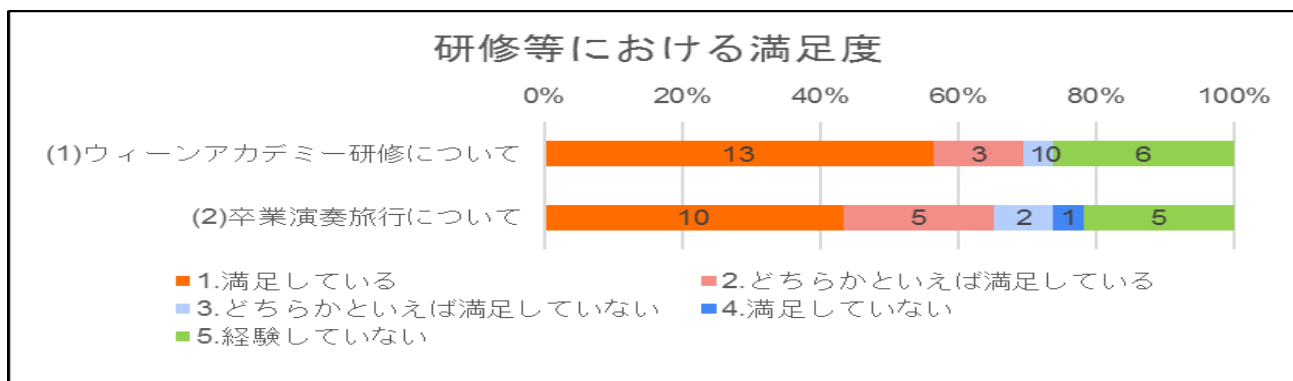
「身についた」、「どちらかといえば身についた」を併せると、「専門分野における基礎的な知識・技能」ならびに「自ら学習を続けられる生涯学習能力」では回答者全員が、身についたと実感している。次いで「自ら課題を見つけ、解決しようとする力」ならびに「多様な人々と協力して行動する力」、併せて「音楽を通して社会に貢献できる力」ならびに「音楽芸術に偏らない深い教養と人間性」の4項目においても90%以上が身についたと回答している。上述の6項目については、本学のカリキュラムを考慮すると、レッスン等の音楽の学びを通して身についた力であると推察される。また、7項目中6項目において、「身についた」、「どちらかといえば身についた」が90%を超える結果であり、これは2020年実施時の70%を大きく上回る結果となっている。卒業生自らが「身についた」と自負している結果は、本学における一定数の教育効果を証明しているといえる。一方、「読む力、書く力、発表力、グループ討論等のコミュニケーション能力」では、約20%が身につけていないと感じている（2020年実施時は約30%）。音楽大学の特性を活かしながらか本項目の学びについては引き続き検討が望まれる。

【Q11】 本学での学生生活における満足度について伺います



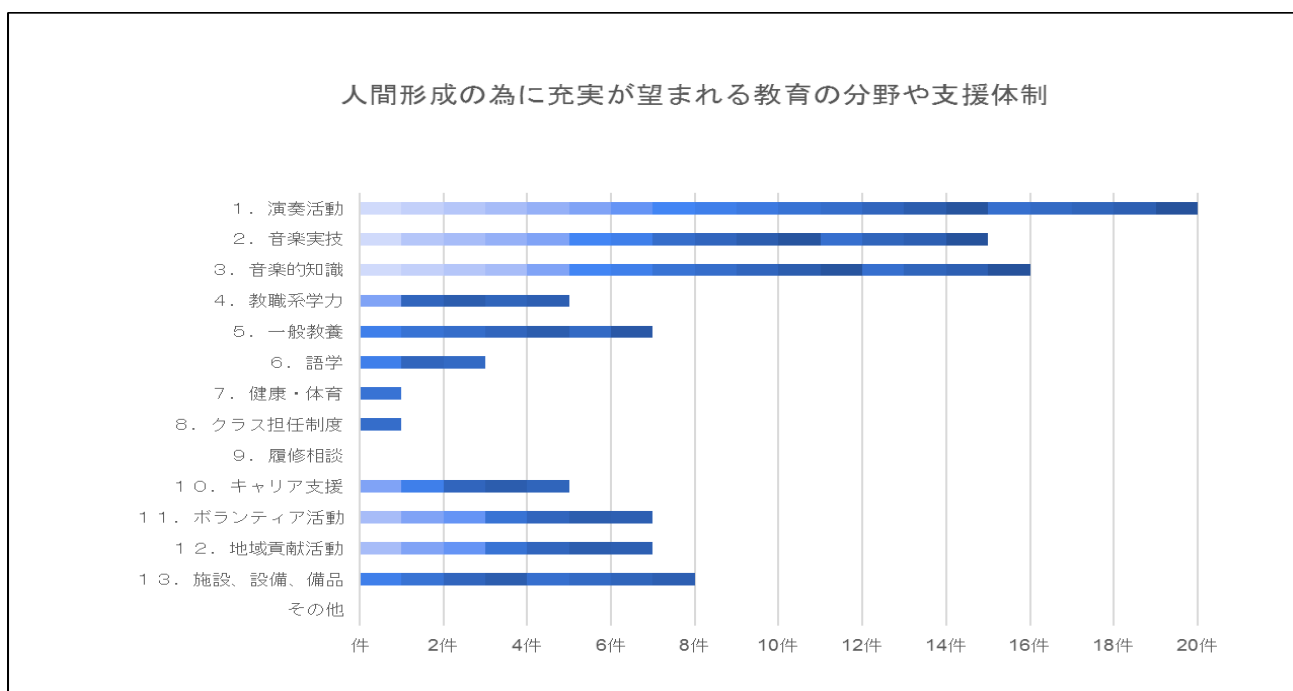
「満足している」、「どちらかといえば満足している」を併せると、「教育内容全体」、「学修に関わる施設、設備、備品」、「人間関係、環境を含む学生生活全般」が同数で最も高い結果であった。また、「卒業後の進路、キャリア支援」では、2020年実施時の約40%を上回る約70%の結果となっている。また、身につけることができた力(Q10)の回答と比較すると、満足度に関する本項目の数値のほうが若干低い数値となっているものの、5項目中4項目において90%以上の満足度が示されている(2020年実施時は75%)。

【Q12】本学での以下の経験における満足度について伺います



「満足している」、「どちらかといえば満足している」を併せると、いずれも65%以上が満足している結果であった(2020年実施時は75%)。また、「経験していない」を除いた回答では、いずれも80%以上が満足しており(2020年実施時は90%)、本学の特色である両カリキュラムが学生から一定数評価されていることが示された。

【Q13】本学での学生生活を振り返って、人間形成の為に充実が望まれる教育の分野や支援体制について伺います（複数回答）



「演奏活動」が最も高く、次いで「音楽的知識」、「音楽実技」、「施設、設備、備品」の順であった。2020年実施時は、「一般教養」が最も高く、次いで「音楽実技」、「演奏活動」、「キャリア支援」の順であったが、本設問においては回答者における就業状況（Q3、Q6）が影響する（2020年実施時は一般企業の就業者割合が高かった）可能性が推察される。また、ボランティア、地域貢献、一般教養についても一定数の回答者がいることから、引き続き充実した支援を検討していくことが望まれる。

【Q14】 本学へのご意見ご要望などございましたら、ご自由にご記入ください。

1	今の学生の声にしっかりと耳を傾けてほしい。真面目にやっていることが馬鹿らしいと思わせるような行動を庶務などの対応で感じさせせたく音楽が好きで入った人たちが辞めていくような事態に発展させないでほしい。全ては人と人の間に成り立つこととを感じるから、職員と学生が手を取り合って互いに良い学校づくりをして行ってほしい。
2	学内の活動や演奏レベルだけを見るのではなく、学外の活動(コンクールや、セミナー等)等広い視野で、音楽に取り組める様な指導。
3	以前通った大学は学生が多く先生や職員の方とはあまり接する機会がありませんでしたが、東邦の短大では先生・職員の方共に一人一人の学生に対し親切に接して頂けたと思います。充実した学生生活でした。ありがとうございました。
4	今は分かりませんが、在学中は日曜日に練習ができなかったのが、日曜も練習できれば学生にとってはありがたいかなと思います。

注) 自由記述を原文のまま記載

2. まとめ

本アンケート調査から、得られた示唆は以下のとおりである。

- (1) 転職経験者は30%に留まっており、併せて現在の就業状況については100%が満足している（「満足」「やや満足」を合算）ことから、本学生の卒業時のキャリア選択能力が一定程度高いこと、学生時代の学びや経験が活かされ充実した社会生活を全うしている様子が伺える。
- (2) 学生生活における満足度では、5項目中4項目において90%以上の満足度が示された。併せて、「キャリア支援」でも2020年実施時を上回る70%が満足している結果であり、全体的に高い満足度が示された。充実が望まれる教育分野や支援では、2020年実施時は「音楽実技」や「演奏活動」などの音楽系項目よりも、「一般教養」を選択した割合がわずかながら多い結果であったが、本調査では「演奏活動」が最も高く、次いで「音楽的知識」、「音楽実技」の順となり、音楽系項目が高い結果となった。但し、本設問では回答者割合における就業状況（Q3、Q6）が影響を及ぼしている可能性が推察されるため、経年での分析を要する。本学の教育の質向上に際しては、自由記述の意見も参考に全学的に検討、取り組むことが望まれる。

(3) 「ウィーン研修」、「演奏演習」については、満足している割合が 80%を超える結果であった（経験者のみ）。また、「印象に残っている科目」においても両項目が挙げられており、2020 年実施時も同傾向であった。本学の特色ある教育が学生からも引き続き高く評価されていることが示された。

(4) 学生時代に身についた力では、「専門分野における基礎的な知識・技能」、「自ら学習を続けられる生涯学習能力」において、身についたとする割合が 100%であった（「身についた」「どちらかといえば身についた」を合算）。併せて「自ら課題を見つけ、解決しようとする力」、「多様な人々と協力して行動する力」、「音楽を通して社会に貢献できる力」、「音楽芸術に偏らない深い教養と人間性」においても身についたとする割合は 90%以上であった。本学のカリキュラムを考慮すると、レッスン等の音楽の学びを通して身についた力であると推察される。また、7 項目中 6 項目において身についた割合が 90%を超える結果であり、これは 2020 年実施時の 70%を大きく上回る結果である。卒業生自らが「身についた」と自負している結果は、本学における一定数の教育効果を証明しているといえる。一方、「読む力、書く力、発表力、グループ討論等のコミュニケーション能力」では、約 20%が身につけていないと感じており、2020 年実施時の約 30%より改善しているものの、音楽大学の特性を活かしながら本項目の学びについても充実させるための検討が引き続き望まれる。

以上